

YAMANASHI

発行/山梨県PTA協議会 会長 小林奈都夫 〒400-0031 甲府市丸の内三丁目33-7 TEL.055-228-1342

編集/山梨県PTA協議会情報委員会 印刷/総合印刷 王文社

第1回 山梨県 PTA大会

平成25年11月30日(土)
山梨県立文学館 講堂

山梨県立文学館講堂に山梨県教育委員長の高野孫左エ門様をはじめ、6名の来賓をお迎えして開催されました。

会員337名が集い、司会の小林寛、渡辺あゆみ、お二人の堅苦しくない和やかな話術により終始リラックスした雰囲気の中で、真剣な発表と討議による充実した大会でした。

参加者から、「よかった。楽しかった。こういう大会を続けると口コミで参加者が増えますよ」とうれしい感想をいただきました。

1部の前半は磯村企画委員長がたくさんの資料を整理して、特色ある単位PTA活動の紹介とともに、県PTAからの意見発表をしました。詳しくは次ページや、県Pホームページをご覧ください。



貴重な実践報告
ありがとうございました

後半は玉諸小学校元PTA会長の中込武文さんが10年ほど続けている活動を報告してくれました。内容は多岐にわたり、餅つき大会、ピザパーティー、エブロンシアター、キッズカンパニー(屋台のお店)、お化け屋敷等々。『教えない、押しつけない、怒らない、失敗から学ぶ』を、取り組みの一貫したポリシーとしていると話されていました。

2部は萩原副会長のコーディネートで進められました。近藤課長さんは、保護者がスマホの良さと危険性を学ぶ必要性を強調し、社会教育課はその機会と情報の提供に力を入れていると話されました。

軽部さんは、家庭・地域での子育て支援の実状を具体的に話していただきました。

小林社長さんは、強烈な個性で常に笑いを振りまきながら講話して頂きました。肩肘張らずしっかり見守り子供の命を守る保護者(大人)になりましょうと話されました。



笑いながら聴く大会でした

第1回 山梨県PTA大会



高野委員長様は表彰代理授与もして頂きました

「子どもの命を守る」



貴重なご提案ありがとうございました

大会スケジュール

■開会セレモニー(表彰を含む)

■第一部

*調査をもとに企画委員会意見発表

磯村賢一(企画委員長)

*玉諸小PTA活動報告

中込武文(元玉諸小PTA会長)

■第二部

*パネルディスカッション

「子どもたちの生きる力を私たちはどうつづけるか」

パネリスト

小林 久氏(スーパーやまと社長)

近藤周利氏(県社会教育課長)

軽部妙子氏(あんふあんねつと代表)

コーディネーター

萩原智子(県PTA副会長)

単Pアンケート調査結果発表



企画委員会 委員長 磯村 賢一(牧丘第一小P)

全単P会長対象に行った①通学時見守り、②防災対策、③特色あるPTA活動について3点のアンケート調査結果をまとめて、県討論集会で早川純一副委員長が、県P大会で磯村賢一委員長が発表しました。

調査ご協力頂いた単位PTAに感謝申し上げます。

集計結果から、学校・地域との関わりが大切で、見守ってくださる方々の支えがあってこそPTA活動なのだと感じました。その中から防災関係の一部を掲載します。

- 地域の総合訓練に参加、メールの活用、学校行事等を活用した取り組み。
○備蓄品の必要性は理解しているが、購入資金は苦勞している。
○学校HP防災マップに危険道路、一時避難場所、避難所等掲載校がある。
○学校、家庭、地域連携で、地域の子どもを守り育てている事例もあった。

詳細は県Pホームページに掲載してありますので是非ご覧ください。

非常食等の備蓄

- ・乾パン、飲料水、毛布、クワッカー、アルミブランケット、米等を備蓄している。
●保護者の防災に関する意識が高まった。
●災害時に備えられる。
●保護者に引き渡すまでの緊急の措置としての効果がある。
▲市町村に要望しているが、対応は厳しい！
▲バザー収益金やPTA会費から購入している学校が多い。
▲PTAの予算だけでは十分に確保できない。



社会が、子供たちのために何をしてくれるのかを考えるのではなくPTAとして、子供たちのために何が出来るかを考えませんか？



通学時、見守り活動に関する取り組みについて



特別委員会報告

(要旨抜粋) <提案書全文は県Pホームページをご覧ください>

「子供の命を守る特別委員会」提案書

委員長 中村 裕一

『自助自立、自分の命は自分で守る』が最も大切なことです。そのために家族で学習し、正しい知識を身につけ、対策を話し合う機会として「家庭内DIG」の取り組みを提案します。

DIGとは災害図上訓練という意味です。大地震の時、家屋内で死亡したり怪我をすることが多く、助かったとしても過酷な避難所生活で苦勞をします。「命を守る」ことと「被災後も自宅で生活」のために、防災対策はどのようなことが必要か家の見取り図を広げて話し合ってみましょう。家族で地図や図面を囲み、全員が書き込み議論しながら、被害予想とそれのための対策について深めていきます。

分かったつもりになって何もしないと、DIGに取り組むのでは、意識面でも被害軽減の面でも大きな違いがでます。このことは地域防災にもつながる重要ポイントです。県Pとしてまず内部勉強会に取り組み、郡市P・単Pの支援をはかることを望みます。

「組織・活動検討特別委員会」提言書

委員長 桂原 慎治

少子化に伴う会員減少を見据えた組織・運営実現のため、県Pのあり方や目指すべき活動について検討し以下4点について提言します。

1【役員構成】

子供たちの健やかな成長というPTA活動の目的実現のため、会長のサポート体制充実と事業や活動の情報発信を積極的に行うための改編を提案します。

そのため、副会長の選出方法を見直し、全県担当副会長を増員する等、組織改革を行うことを提案します。

また、常任理事会、理事会の付託を受けて速やかに協議できる機関設置を提案します。

2【常置委員会】

事業実施のための常置委員会ではなく、定款に定められた本来の活動を期待します。求められている活動が定款規定と相違する場合は、定款の見直しを行い、現状に即した活動を目指すことを期待します。

3【単P等からの意見聴取】

郡市・単P会長等と意見交換できる機会を設けることを検討してください。

4【県Pが目指す活動とは】

会員にとって県Pが身近な存在になり、意見聴取や情報発信がスムーズになるよう期待します。また、時代に即した情報発信ツールを積極的に活用することを期待します。

おめでとうございます



優良団体・個人表彰を受賞

2013年11月19日 於ホテルニューオータニ

文部科学大臣表彰：団体

- 笛吹市立春日居小学校PTA
富士吉田市立吉田中学校PTA
学校法人市川南幼稚園PTA

文部科学大臣表彰：個人

- 天野 一 (第31代県P会長)
柵 謙一 (第32代県P会長)

日本PTA会長表彰：団体

- 笛吹市立春日居小学校PTA
甲府市立城南中学校PTA

文部科学大臣表彰：個人

- 笠井 辰生(22年度副会長)
小田切道之(前事務局長)
中村 裕一(23年度副会長)
田中 利江(24年度副会長)

◎他の表彰者はホームページをご覧ください。

(敬称略)

各都市Pからの活動報告



中巨摩東部地区 花田 弘樹(双葉西小P)

私たちは子供たちの学習環境を取り巻く変化に対応し、児童、生徒が安心して学校に登校できる事に取り組んでいます。今後は、市P連や単位PTAの思いや悩みを持ち寄り解決できるような取り組みができる環境の場をもう少し増やしていきたいと考えています。



笛吹市P連 小林 寛(石和中P)

平成17年に5町2村が合併。笛吹市が誕生。同時に各P連も合併して笛吹市PTA連合会が発足致しました。市内19の小中学校で構成されています。

恒例の講演会は9回を数え、今年度は山梨放送アナウンス部部长、依田智子氏を講師に招き「ことばの力」～伝え方・伝わり方～と題してご講演をいただきました。同日夜の懇親会には生徒数15名の芦川中Pから全校生徒4750名の石和中Pまで市内19Pが勢揃いし懇親を深めました。



富士吉田市P連 舟久保 信(明見小P)

富士吉田地区は、小学校7校・中学校4校でPTA連合会を組織しております。定期的に執行部会と評議委員会を開催し、各学校の課題や課題点をまとめ教育行政に陳情を行い要望に答えられる様、努力しております。

PTA活動を通して学校の現状、先生方が懸命に奮闘する姿を知ることが出来ました。そんな姿を私達がしっかりと発信して、先生方と共に取組み、励まし合い、信頼し合ってより良い学校と教育環境を作っていくことこそが今、私達に必要な活動であり、子供達に見せるべき『大人の背中』だと感じてなりません。今後も引き続き、学校・先生方を応援しPTA活動を行って参りたいと思います。



北都留P連 和智 浩二(上野原小P)

他の都市Pでも同じような課題があるかもしれませんが、北都P連は役員の任期が半年であるため、新年度スタート時、Pで運営、役割等を理解している人はほとんどいません。理解し始めた頃に、任期満了となり、新年度また手さぐり状態でスタートするということが続いています。県Pと単Pを繋ぐ大事な会として、また、もっと単P同士の繋がりを強化するため、今後は組織・活動等の改革が必須であると感じています。



甲州市P連 雨宮 眞司(玉宮小P)

甲州市小中学校PTA連絡協議会では、「豊かな心をもつ子供を育てよう」の統一テーマの基に活動を行っています。11月の甲州市義務教育振興集会では、より良い教育環境や子供たちの安全・安心の実現に向けて、要望書の提出・検討が行われました。また、講師に河村茂雄先生を招いての学習会も開催しました。現在の子供たちが抱える問題点、学校・保護者のあり方等、重くなりがちなテーマでしたが、ユニークな語り口・事例紹介など大変楽しく勉強になりました。



北杜市P連 八巻 浩人(甲陵中P)

北杜市PTA連合協議会は、市内の小学校11校・中学校9校の20校で構成され、北杜市の教育振興を図ることを目的とし活動しております。子ども連を取り巻く環境改善に向けて各学校から要望や意見等を集約し、毎年10月に市へ働きかけを行っております。これまで多くの要望事項が実現されました。

今後も学校と保護者が連携を深め、地域の方々と共に子ども達が、安全で安心して学べる環境を整備出来るよう活動を進めたいと思います。



都留市P連 石原 一哉(宝小学校P)

都留市PTA連合会は、小学校8校と中学校3校の計11校で構成されております。

都留市でも様々なPTA活動を行っておりますが、その中の1つであります義務教育振興都留市民集会ですが、今年で第43次となります大変歴史ある市民集会でもあります。『心身ともに健全で人間性豊かな子どもの育成を目指して』をスローガンに掲げ取り組みました。実行委員会や集会の分科会で討議された事項を検討、集約し都留市及び都留市教育委員会等に要望して参りました。その結果、関係当局でも深く理解して頂き、私たちの要望が受け入れられました。これからも市民運動のねらいをより多くの人に理解してもらいながら、市民運動として盛り上げていければと思っております。

関プロ神奈川大会に参加しました。平成25年 10月27日～28日

時季はずれの大型台風接近で、大会開催も山梨出発も悩まされた忘れられない大会でした。規制がかかった道路を必死にお願いして、無理矢理通過してバスに間に合った参加者もいました。6分科会でそれぞれ講演と研究発表がありました。



講演者には、「オール1の落ちこぼれ、教師になる」の著者「宮本延春氏」、俳優の「渡邊徹氏」、「尾木直樹氏」、父が大島清映画監督の「大島武氏」、「藤原和博氏」、「高橋史朗氏」が、「開国の地から新しい風を」の大会スローガンのもと熱き思いを分かり易く話してくれました。

共通なことは、「新しい風」とは言っても日々日常の過ごし方の大切さに触れていたように思います。

ある講師は、挨拶、返事、整理整頓等厳しさを経験し(型を守る)、やがて楽しさを感じ(型を破る)、その先に自主性が育つと話されました。

第4分科会(地域連携)で、北杜市立長坂小学校の小宮山栄二PTA前会長が、おやじの会、ながさかっ子を見つめる会、地域安全推進委員会等とPTAと協働する行事を紹介し、豊かな自然の中出来ることを無理なく、様々な人と連携したみんなが楽しめる取り組みを発表して、関心を持たれ大変好評でした。



三行詩推薦作品

小学生の部	中学生の部	大人の部
「あひさつで、やさしい気持ちもが、ふくらむよ……」	「少事れに、走って帰る我が家には、いつも同じ笑顔がある。」	「10歳の會員がカバンを見逃せば、既に読まれた書文から、潮も向く潮はあどけなし、嫌なことをやらい時、子どもの笑顔で、ラフレッシュ。」
「あおそく、家に帰るとしかられる、だけど感じる親の愛情。」	「ざつと前に話したことも、覚えてくれてるお母さん。」	「かひものは、気づけばプロボロ、大木行列。」
「あいつでも、下を向いてはほられない、あのすんだ空はわたしの未来。」	「あつたままですら、あつたままですら、あつたままですら。」	「親、先生、見て見ぬふりはいけません、子どもは本気で頑張っている。」
「いたたきます、心も愛情、チャージする。」	「あつたままですら、あつたままですら、あつたままですら。」	「おかえりなさい、ただ今ここにいますおせかみじめる……」
双葉東小5年 飯野 風花	白州中1年 原 光紅剛	須玉中 津金 有子
大月東小6年 小俣 智輝	北都中3年 星野ひかり	丹波小 守屋 秀寿
長坂小1年 三俣 佳菜	山梨南中1年 佐藤 巧人	丹波小 渡邊 星紗
高崎小6年 保阪 美樹	山梨南中3年 佐藤南々帆	祝小 鈴木登志美
塩山北小6年 丹澤 星紗	富士北中2年 横田 彩香	古屋 達之

親子安全会・扶助会だより

支えあう安心

山梨県PTA親子安全会 会長 梶 謙 一
山梨県PTA扶助会 (市川中P)

今年度も親子安全会・扶助会では、地域の宝である子供たちの健やかな成長を支えるために、子供たちや会員の不慮の事故に対する見舞金や死亡弔慰金の給付、健康安全教育活動や福祉増進の取り組みに対しての助成を行ってまいりました。見舞金等の給付にあたっては年間9回行われる審査運営委員会で、各郡市代表の校長先生をはじめとする16名の認定委員と医師1名 事務局2名が、公平・公正な給付の徹底を図るように努めています。

子供たちや会員の皆様が安心して楽しく活発な活動が行えるよう万が一の事故に備え、これからも親子安全会・扶助会ではPTAを側面からサポートする活動を行ってまいります。

本紙に見舞金の給付規定並びに、教育相談のお知らせを掲載しました。下記の内容をもしもの時の備えとしてご確認ください。

相互扶助の親子安全会

PTA親子安全会審査運営委員長
小林明夫(市川小T)

親子安全会という相互扶助の見舞金制度を自主的に始めようと決定されたのは、昭和46年のPTA全国大会でした。本県ではそれから4年後の昭和50年から見舞金の給付を始めました。

現在年間9回開かれる審査会には、毎回200件程の見舞金請求が寄せられています。スポ少の練習や試合中の傷害、遊びの中での転倒や落下による傷害、自転車での交通事故など状況や内容も様々な事案が寄せられています。こうした多くの請求事案につきまして、審査会では、一件毎に最大限の見舞金としての給付が出来ますよう慎重審議を行っています。

本制度により、多くの子ども達や保護者の方々が勇気づけられることを、また、末永く相互扶助の制度として、御理解御支援を頂き継続していくことを心より願います。

親子安全会見舞金

もしも**けが**をしてしまったときには…親子安全会から**見舞金**が給付されます。

治療回数が**2回以上**のけがや死亡の場合、申請により見舞金が支払われます。

事由	対象	区分	見舞金額	
死亡見舞金	児童生徒 保護者・教職員	日本スポーツ振興センター適用外	10万円	
		疾病・傷害を問わず、いかなる場合も対象となります	10万円	
傷害見舞金 【(接)骨院での治療は5割給付上限50,000円】	児童生徒	日本スポーツ振興センター適用外 ※学校生活中以外の全てのけがが対象	入院 1,500円/1日 通院 1,000円/1回	
		保護者	1 PTA活動中 2 児童生徒を対象とした社会的行事参加中 ※社会的行事とは公的機関が主共催の行事	入院 3,000円/1日 通院 1,500円/1回
	教職員		1 PTA活動中 2 児童生徒を対象とした社会的行事参加中 3 勤務中	入院 3,000円/1日 通院 1,500円/1回
		後遺障害見舞金	児童生徒 保護者・教職員	後遺障害見舞金支払区分によって査定された金額 (ただし、入・通院傷害見舞金と合算して10万円以内)

扶助会援助金・見舞金

万一、保護者(会員)が**死亡**したとき…

扶助会から**厚生援助金**(一時金)が、

PTA活動中や社会的行事参加中の事故死亡には**弔慰見舞金**が支払われます。

詳しくは学校から配布される
「平成26年度
親子安全会・扶助会の手引き」
をご覧ください。

事由	対象	区分	見舞金額
厚生援助金	保護者	児童生徒の保護者(親権者)である会員死亡(死亡の理由は問わない)	10万円
弔慰見舞金 (事故死亡の場合のみ)	児童生徒	PTA活動中による事故死亡(日本スポーツ振興センターの適用外)	100万円
		PTA活動中による事故死亡	300万円
	保護者・教職員	児童生徒を対象とした社会的行事参加中による事故死亡 ※社会的行事とは公的機関が主共催の行事	200万円
	教職員	勤務中による事故死亡	100万円

教育相談事業

教育四者(PTA・校長会・教頭会・教育会)による教育相談室

相談会場等案内 【相談時間】午後1:30~5:00 ***相談は無料です***

地区	会場	住所	TEL	相談曜日	相談員
東山梨	東山梨教育会館	甲州市塩山千野3421	0553-33-2635	第2・4水	雨宮 正文
笛吹	笛吹市教育会館	笛吹市八代町南438	055-265-2117	随時	塚越 武文
峡南	峡南教育会館	南巨摩郡富士川町鯉沢795-4	0556-22-1500	第1・3水	尾崎 源武
中巨摩	中巨摩教育会館	南アルプス市西野1294	055-282-5070	毎週金曜	辻 高廣
北巨摩	北巨摩教育会館	韮崎市若宮2-6-26	0551-22-0540	第1・3月	上野 幸治
南都留	南都留教育会館	富士吉田市下吉田886	0555-23-6151	随時	希代 修
北都留	北都留教育会館	大月市大月2-8-29	0554-22-1811	第1・3月	天野 文義
全県	山梨県教育会館	甲府市丸の内3-33-7	055-228-1342	随時	早川 憲三 武井 文雄

編集後記

今回は初開催の山梨県PTA大会を中心に、様々なPTA活動の報告・情報を掲載しました。紙面を通してそれぞれの活動の活気や熱気が伝わればと思います。

早いもので後一ヶ月ほどで子供たちも卒業です。多くの皆様のご協力ありがとうございました。

情報委員長 雨宮 眞司